

# 令和5年度 事業報告書

- (1) 学校目標
- (2) 教学改革計画
- (3) 学生募集対策
- (4) 外部資金獲得
- (5) 人事政策
- (6) 経費抑制計画
- (7) 施設設備整備計画
- (8) その他

## 《参考》

事業の概要（経年比較表）

事業活動一覧

武蔵丘短期大学

## (1) 学校目標

### ①学校スローガン

人格を育てる教育、専門知識・技術の習得、社会への貢献の具現化を可能とするよう、将来に続く基礎を確固たるものとする。

個人及び社会の多様化に対応する能力開発を目指す教育内容、教育環境の充実・整備を継続し進めてゆく。

学生による情報収集力、正しい結論に至る直観力、洞察力、論理的思考力を育成する学習環境を創造する

学校スローガンは、昨年度同様に教授会や各種委員会等の「達成目標」として共有し、昨年度と同じスローガンにしたことで、教職員がしっかりと意識することができていた。これらを踏まえ、本学の教育理念、教育目的・目標、三つのポリシーの見直しを行うことができた。合わせてカリキュラムの検討・見直しにおいても、基本的な考えについての共通認識を持つことができ、スムーズに検討を進めることができた。

経営改善を進めるには、学生数の確保を最優先課題とし、入学生目標 140 名達成に向け対策を講じたが、入学生数は令和 4 年度よりも 16.7%増の 112 名であった。今後さらに社会人にアピールするためにも、そして多彩なメディアを高度に利用した教育の実現のためにも、リモート授業実施に関する環境を整えて行くことが学生募集の観点からも重要である。

### ②数値目標

	令和 4 年度 実績		令和 5 年度 目標		令和 5 年度 実績	
教学 (学生支援)	退学率	5.6%	退学率	—	退学率	3.3%
	就職率	99.1%	就職率	—	就職率	96.6%
学生募集	入学定員	170 人	入学定員	170 人	入学定員	150 人
	入学者数 (令和 5 年度)	96 人	入学者数見込 (令和 6 年度)	140 人	入学者数 (令和 6 年度)	112 人
	OC 歩留率	34.5%	OC 歩留率 (見込み)	50%	OC 歩留率	42.4%

- ※ 入学者数は当該年度 4 月 1 日に入学し、5 月 1 日に在籍した学生数とする
- ※ OC 歩留率は当該年度 4 月 1 日～9 月 30 日の OC 参加延べ人数に対する出願数の割合とする
- ※ 退学率は当該年度の合計退学者数を 5 月 1 日の在籍者数で割った数値 (%) とする
- ※ 就職率は当該年度の就職希望者に対する就職者の割合とする
- ※ 割合 (%) は少数第 2 位切り捨てとする

### ③目標達成のための優先課題と活動概要

#### a. 短大運営

本学の発展のために、業務の効率化が優先課題であったが、思うように進まなかった。しかしながら、教職員のスキルアップを継続して、引き続きDX推進を図っていく。

#### b. 教学改革計画

教学事業においては、優先課題である三つのポリシーの自己点検評価を実施し、ディプロマポリシーの達成につながるようなカリキュラムの検討・見直しを進めることができた。2つ目の優先課題であるリモート授業については、教務に関するシステムの見直し、及び学習管理システムの検討が必要であり、資格取得なども含め、対象・目的を明確にしたうえで検討を進める。

また、今年度より本学客員教授でもある飯尾哲司副校長と中村昌次特任教授による調理実習特別授業を実施し、武蔵野調理師専門学校の実習室を使用して、これまでとは異なる視点での学びの場を提供することができた。

#### c. 学生募集対策

企業と連携した経済的なサポートについて数社への相談を実施し、2社とパイプを構築することができたが、学生とのマッチングはできなかった。今後も双方に有益な関係を継続できるようにして行く。社会人を学生として受け入れる体制については、リモート授業による単位修得なども含め教務委員会と検討を進めているが、栄養士資格についてはリモート授業による資格取得が認められていないため、健康スポーツ専攻での検討を継続する見込みである。

#### d. 外部資金獲得

教室や体育館、グラウンド等の施設貸出しは徐々に依頼件数が増え、外部資金を獲得できていると言えるが、各種指導教室や公開講座等の開催が進まなかったために外部資金獲得はできなかった。また、「私立大学等改革総合支援事業」の補助金獲得も不採択となり獲得することができなかった。その他、寄付金募集では3件獲得でき、そのうちの1件は新規で獲得できたので、今後はより寄付金募集を積極的に進めたい。

## (2) 教学改革

### ①中期計画に基づく実施計画

リモート授業に関する環境を整備し、更なる充実を図るための研修会を実施することを計画していたが、リモート授業実施のためには、教務に関するシステムの見直し、及び学習管理システムの検討が必要となった。

#### a. リモート授業スキルアップ研修会

今後のリモート授業実施に関して検討が不十分であり、研修会を実施することができなかった。

### ②カリキュラム改革等

本学の教育理念を見直し、本学の教育目的・目標、三つのポリシーを見直した。合わせて各専攻の教育目的・目標、三つのポリシーも見直し、令和7年度に向けて整えた。また、健康スポーツ専攻の新カリキュラム作成に合わせ、両専攻の必修科目の見直しを行った。更に、今年度は本学客員教授でもある飯尾哲司副校長と中村昌次特任教授による調理実習特別授業を健康栄養専攻1・2年生が受講した。武蔵野調理師専門学校の実習室を使用して、これまでとは異なる視点での学びの場を提供することができた。

#### a. 教育目的・目標、三つのポリシーの見直し、カリキュラムの完成

今年度はまず、本学の教育理念を見直し、本学の教育目的・目標、三つのポリシーを見直した。それを踏まえ、各専攻の教育目的・目標、三つのポリシーを見直し、令和7年度から変更する。また、健康スポーツ専攻と健康マネジメント専攻が1つの専攻になることから、健康スポーツ専攻の新カリキュラムを完成させ、合わせて両専攻の必修科目の見直しを行った。

#### b. カリキュラムマップの作成、学習成果の可視化

今年度は、両専攻のカリキュラムの見直しを行ったことから、カリキュラムマップ・学習成果の可視化については、検討途中となった。次年度では、新しい教育目的・目標、三つのポリシーを踏まえ、各専攻の資格取得との整合性を考慮した上でカリキュラムマップ作成を実施する。そして学生自身が学習成果を確認できる方法を検討する。

### c. 取得資格の精査

健康スポーツ専攻では、新カリキュラムに合わせてコースを見直し、コースごとに取得できる資格を明確にした。それによって将来の方向や資格取得後の進路をイメージできるようにした。健康栄養専攻では、今後コースの見直しを検討する予定である。

### d. 地域貢献活動の強化

連携協定を締結した学校への特別講座は、教員による対応で継続して実施した。また、今年度は東松山市立東中学校の生徒に対し、体験授業を実施した。さらに健康スポーツ専攻では新カリキュラムに地域での指導実践の科目を新設し、地域の方を対象に指導する機会を増やす予定である。

## ③キャリア支援・就職支援

進路支援委員・担任教員・他の教職員が学生の就職状況が掴めるように、ポータルサイトで情報共有をし、就職支援に力をいれた。その結果、学生の活動状況が把握でき、教職員が協力し合って、状況に応じて学生へ指導することができた。希望者に対する進路決定率は95.5%となった。学生がより就職活動を自主的に進められるように、キャリアデザインや社会環境とキャリアの授業内容において、学生のニーズに応えられるように改善していく必要がある。

## ④学生支援・中途退学対策

### a. 中途退学対策

これまで実施してきた「教員が授業科目の欠席状況をメールで配信し、担任による学生指導を行う」「学生のモチベーションを維持・向上させるための授業改善、フィードバック、学習評価を実施する」この2つの取り組みは今後も継続する。入学前教育については、今年度は対面での実施に戻し、内容の見直しを行った。入学後、スムーズに授業に入れるよう、先輩学生の協力も得ながら各専攻で内容を工夫し、入学後の学校生活がイメージできるようにした。また、対面で実施したことで新入生の様子がわかり、必要に応じて医務室とも連携を図りながら、サポート内容について対応することができた。

### b. 資格取得サポートの体制づくり

資格ごとに資格取得希望者向けのClassroomを作成し、必要な情報を学生に配信しているが、今年度は学生だけでなく両専攻のクラス担任や専攻長も招待し、学生情報や資格に関する情報が確認できるようにした。資格組織的な支援体制づくりについては、今後も継続して検討する。

### (3) 学生募集対策

#### ①中期計画に基づく実施計画

令和5年度入学生数目標140名達成に向けた年齢を問わない専門人財育成の充実を含めた学生募集活動の点検を実施し、対策を講じたが、入学生数は令和4年度より16.7%増員の112名であったが、目標達成率は80.0%の結果だった。

#### a. 企業による学費サポート

学業優秀であり経済的負担を軽減したい学生と優秀な学生を採用したい企業とをマッチングする試みは令和4年度までの活動を継続・発展させるために、数社への相談を実施した。その結果、茨城県水戸市の食品関連会社である株式会社 オーピーシートレーディング、ケイタリングが主業の株式会社 PURE DINING とのパイプを構築することができたが、学生とのマッチングは成就しなかった。今後も双方に有益な関係を継続できるように努める。

#### b. 社会人入学者の増加

デュアルキャリアサポートの教育体制として『長期履修制度』、『リモート授業による単位修得』など『学びプラン』については、教務委員会との意見交換を実施しながら作成作業を進めている。その中で、栄養士養成校はリモート授業による栄養士免許証取得が認められていないため、リモート授業を積極的に進めることができなかった。埼玉県委託訓練事業による訓練生の募集を継続する。健康スポーツ専攻においては、保健体育科教諭免許状の取得希望者に焦点をあてた検討が継続見込みである。広報についてはサッカーJリーグ(男女プロ選手) 広告掲載や自衛隊・ハローワークへの訪問を実施した。その他、Instagramを中心としたSNS活用は徐々に充実しているが、よりフォロワー数の獲得にも注視したい。ホームページは、社会人特設ページ、強化部ニュースなどを充実させた。

#### c. 広報対象の拡大

埼玉県内のろう学校、日本語学校への広報を実施した。学内の支援・対応体制については継続して整備する。

#### ②体験入学・学校説明会等

高校生のニーズに沿った内容や実習型体験授業への変更・増加、オフィシャルサポーター教育の強化、公認キャラクター作成(+着ぐるみ)など、充実した活動の結果が入学者数に少なからず反映しているものと考えている。

#### a. オープンキャンパス体験授業に関する試み

Z世代の特性に応じた体験型実習を多数準備するため、今までにオープンキャンパスで実施したアンケート回答内容や進路ガイダンス等の分野（内容）別参加状況を鑑みて体験授業内容を変化（進化）させた。またさらに本学への興味や親近感が高まるように公認キャラクター『ムサにゃん』、『ムサわん』を作成・学内認定し、『ムサにゃん』については着ぐるみ（現物寄付）を準備した。来校者に大変好評である。

#### b. 学校説明会、模擬授業参加校の見直し

埼玉県、群馬県に重点をおいた広報活動（高校訪問、ガイダンス）を実施した。特に埼玉県内高校については近年の入学状況から重点校（S）、準重点校（A）を設定し、全学的に広報活動を展開した。

#### c. 体験型イベント開催の検討

従来のサマーフェスタ（体験型キャンパスツアー）、クリスマスフェスタに加え、バレンタインフェスタを開催した。今後も季節行事等を意識した体験型イベント開催を検討する。

### ③その他の取り組み

コロナ禍で交流が中断されていた女子サッカー部の「アーセナル・ウィメンFC」との交流が再開できた。4月・8月にコーチを派遣いただき、近隣の中・高校生を招待して本学女子サッカー部のみならず、学生募集の観点からも国際交流の機会としてアピールできたことは大きな成果であった。

また、高校訪問時期を考慮した訪問、高大連携協定校増加および文化祭参加による交流、積極的な高校との情報交換により連携強化を図った。

## (4) 外部資金獲得

### ①中期計画に基づく実施計画

令和5年度は基本的には計画を進行できなかった。

#### a. サッカー教室等の開催

実施できなかったが、中学校部活動の地域移行による吉見中学校部活動との交流（女子サッカー部、女子バスケットボール部、陸上競技部）を参考に次年度実施に取り組む。

#### b. トレーニングジム等の貸出し

校内施設貸出については日本スカッシュ協会（ナショナル合宿）など複数団体への貸出しを実施し外部資金を獲得している。施設によっては補修や新規機材導入の検討が必要である。

### ②その他の取り組み

一部進行中（実施）である。

#### a. 本学OB・OG会組織について把握

寄付募集への準備は進行している。

#### b. ファシリティの改修・整備を進行

陸上跳躍種目練習場（走り幅跳び、三段跳び）の改修を実施した。

#### c. 各種講座開催

開催できず。公開講座委員会と連携をとり開催準備を継続し次年度に実施する。

#### d. 補助金獲得

『私立大学等改革総合支援事業』による補助金獲得は点数不足のため獲得ならず。



## (5) 人事政策

### ①中期計画に基づく実施計画

短大設置基準を順守した組織運営を目指して検討を行った。令和6年度入学生から健康栄養専攻と健康スポーツ専攻の2専攻となるが、2年生は3専攻であるため、令和6年度は短大設置基準の教員数である21名（助手を除く）で運営することに決定した。

定年退職予定者が1名おり、次年度に向けた対策が必要であったが、さらに転出者が2名おり、合計3名の専任教員補充が必要となった。2名の特任講師（専任扱い）を充てたが、1名については現在公募を行っている。

また、転出によって欠員となった栄養士養成施設として必要な助手については、新規採用者をもってこれに充てた。

### ②組織編制・要員計画

令和7年度には2専攻への組織変更が必要となるため、それを踏まえた上での組織編成・要員計画を進めていく。令和6年度は次年度を見据え、1年期限付きとなる特任講師を採用した。

### ③教職員研修・能力開発

教職員の研修として、FD・SD研修を全体で2回実施した。教員研修としては授業見学・意見交換を各学期で実施したが、職員研修は実施することができなかった。DXの推進に合わせた研修内容については、今後内容を検討しながら進めていく。

## (6) 経費削減計画

### ①中期計画に基づく実施計画

#### a. 予算申請方法の改善について

令和6年度予算申請については申請締切を早めて、全体で検討する時間を長く設定した。また、施設設備購入についても専攻の意見を聴取して、必要な設備の購入については検討を行った。

予算自体は限界まで削減しているため大幅な削減は見込めないが、施設設備の計画的な入替に向けての議論はできたのではないかと感じる。

#### b. マネジメント専攻の廃止の検討

マネジメント専攻廃止で方向性が決まっているため、令和7年度からの2専攻制に向けて令和6年度の教員採用等を検討した。

### ②その他の取り組み

外部資金獲得の点では、吉見町の地域活性化起業人制度で540万円、寄付金3件110万円であった。

補助金の改革総合支援タイプ3プラットフォーム型(TJUP)が不採択となり収入が大幅に減少した。

また、私立大学等経常費補助金についても大幅な経費削減を実行したことも影響して約2,000万円の削減となった。

## (7) 施設設備整備計画

### ①中期計画に基づく実施計画

経営改善が最重要課題となっているため、施設設備の整備は実施していない。開学から30年以上経過しているため、今後大規模な修繕が必要となる可能性があるため、長期的な視点に立って、整備計画を立てていくことが必要となってくる。

## (8) その他

### ①社会貢献・地域貢献活動

#### (1) 産官学連携

吉見町、B&G 財団との連携で、本学学生が B&G 財団のリーダー研修を受講した後に、吉見町の小学生に水泳指導を実施してリーダー資格を取得した。

#### (2) 官学連携

##### (i) 吉見町

- ・令和4年7月より後藤学園と吉見町が協定書を締結した「地域活性化起業人制度」により、本学では学生や教職員を派遣し様々なイベント等に取り組んだ。その中でもサツマイモの商品開発の取り組みは、学園祭や道の駅いちごの里よしみでドーナツやチーズボールの販売を行い好評を得た。
- ・武蔵丘スポーツクラブと共同で吉見町立吉見中学校の部活動地域移行の実証実験に参加し、本学女子サッカー部、女子バスケットボール部、陸上競技部が活動した。
- ・公民館の健康料理教室で小坂講師が2回講座を担当した。

##### (ii) 東松山市

- ・きらめき市民大学へ本学教員が合計11回の講義を実施した。
- ・辻准教授及び学生が「キッズスポーツクリニック」、「東松山市スポーツ少年団」の講師を担当した。
- ・東松山文化まちづくり公社の実施する講座に「「ボッチャをやってみよう！」に福島教授が、「サルコペニア予防」、「熱中症対策」の内容で長島准教授が担当した。
- ・東松山市立東中学校の3年生150名が本学の授業体験に参加した。
- ・第46回日本スリーデーマーチでフェイスペインティングのブース運営を行った。

##### (iii) 滑川町

- ・毎日1万歩運動の栄養教室を長島准教授が担当した。

##### (iv) 川島町

- ・文化財保護事業で川島町に関連する動画作成を八板講師が担当した。
- ・スポーツ少年団指導者講習会で長島准教授が講演した。

##### (v) 鳩山町

- ・ポールウォーキング指導や健康マイレージ事業身体・体力測定を辻准教授が担当した。

##### (vi) 北本市

- ・埼玉県・北本市総合防災訓練の炊き出し訓練を木元講師が担当した。
- ・子ども大学きたもとで「仲間づくりゲームに挑戦しよう！」を福島教授が担当した。

### (3) TJUP (埼玉東上地域大学教育プラットフォーム)

TJUP において本学が主催した事業は下記のとおりである。また、この他にも他大学が主催する事業へ積極的に参加して他大学や他自治体との連携を深めた。

### (4) アメージングカレッジ(オルタナティブ・スクール)との連携

近隣にあるアメージングカレッジと連携して、生徒や学生が共に成長できる交流の場を持つよう施設見学を行った。また、アメージングカレッジは本学グラウンドで運動会を実施した。

#### <本学主催事業>

- ・TJUP19 大学リレー公開講座で本学木元講師が「防災食を考える」と題して講演した。
- ・吉見町との共催でかけっこ教室短距離編を実施し、本学の辻准教授が担当した。
- ・女子サッカー部を中心にフットサル体験事業を実施した。

事業活動一覽

(中期計画に基づく取り組み：NEXTEP PJ 経営上進計画実施工程表抜粋)

武蔵丘短期大学

取組項目	経営改善計画該当箇所	実施目標(方針)	実施計画(クロスS/T分析)	戦略区分(O・T×S×W)	実施責任者担当部署	取組内容/数値目標	実施計画番号	重点事項	想定される費用(万円)					令和5年度までの進捗状況(自己評価含む)			
									R4	R5	R6	R7	R8				
教学改革計画	P7	社会、世界が今必要とし、求める教育の在り方	リモート授業環境整備。対面授業ができる強みを生かして、リモート授業に対応し、幅広い学習環境に対応カリキュラムの充実を図る。	積極(O×S)	事務局総務課情報システム委員会	第2期インターネット配線、Wi-Fi環境整備。研究室、実習室、体育館など未補完箇所を整備。必要性及び場所を精査し、予算を検討しながら進める(学内検討)。	6	★									
			オンデマンド教材整備。対面授業ができる強みを生かして、リモート授業に対応し、幅広い学習環境に対応カリキュラムの充実を図る。		教務委員会学生委員会情報システム委員会	各授業におけるリモート対応コンテンツのさらなる充実。Afterコロナを見据えたりリモート学習ニーズに対応する。	7	★	0	0	0	0	0	0	0	4月のオリエンテーションでは、1年生に対して教務オリエンテーションを実施し、短大アカウント(Googleアカウント)の登録やclassroomへの入室の方法について説明した。今後の課題としては、以下の事項が挙げられる。それは、①オンライン授業の質を確保する方法の検討(教育の質保証)、②オンライン授業によっても質を確保することができる科目の検討などである。	
			リモート授業スキルアップ研修会。対面授業ができる強みを生かして、リモート授業に対応し、幅広い学習環境に対応カリキュラムの充実を図る。		FSD情報システム委員会	Zoom、Teamsなどの配信アプリ、プラットフォームの活用方法の更なるスキルアップや最新のオンライン環境・IoTに関する研修。	8	★	0	0	0	0	0	0	0	本学の方針は、「原則、対面」によって授業を実施するというものである。そうであるとは、以下の事情によっては、学生に対して一部の授業をオンラインまたはオンデマンドによって実施することが有り得る。それは、①「社会人」、②「デュアルキャリア」を選ばれた学生、③そのほかの事情によってオンラインまたはオンデマンドによって授業を受ける学生に対する学習支援を実施する場合である。これらの学生の存在を想定した場合、今後の課題としては、オンラインまたはオンデマンドによる授業の方法や教材作成の方法などについて、FSD委員会や情報システム委員会と協力しながら研修の内容と方法を検討することが挙げられる。	
	教科の再構成	カリキュラム改善、専攻別の三つのポリシー、学習成果を重視し、学習成果の達成のための関連科目を明確にする。各授業の到達目標を学習成果を踏まえて見直し、授業内容・運営方法の改善を図る。健康スポーツ専攻では、デュアルキャリア教育をより充実させるために、カリキュラムの見直しを行う。健康マネジメント専攻では業界、企業との更なる連携を図り、インターンシップ、産学協同をテーマに即戦力となる人材を育成できるよう、カリキュラムの再検討を行う。そして、各専攻ともカリキュラムマップによって履修の流れを明確にし、学生自身が学習成果を確認できるようにすること、努力目標を明確にし、モチベーションを高められるようにする。また取得資格の精査を行い、時間割を含め学習環境を整える。	改善(O×W)	教務委員会各専攻	三つのポリシーの見直し(健康マネジメント専攻)	12	★	0	0	0	0	0	0	令和6年度からの組織の再編へ向け、現健康スポーツ専攻および健康マネジメント専攻では、卒業認定・学位授与の方針等の三つのポリシー、カリキュラム、科目の配当年次、カリキュラムマップ、学習成果の指標の検討を進めている。また、健康栄養専攻においても、カリキュラムや配当年次等の検討を試みている。			
				学習成果・関連科目の明確化	13	★	0	0	0	0	0	0	0	0			
				カリキュラムの見直し(健康スポーツ・マネジメント専攻)	14	★	0	0	0	0	0	0	0	0			
				授業内容・運営、到達目標の見直し	15	★	0	0	0	0	0	0	0	0			
				カリキュラムマップの作成	16	★	0	0	0	0	0	0	0	0			
				学習成果の可視化	17	★	0	0	0	0	0	0	0	0			
	組織の再構成	教職関係実践センター(仮称)の設立。教職課程を持つ短期大学としての強みをより強固なものとするために、教職希望の学生に対して、教育実習や介護等体験などの学外実習へのサポート、採用試験への支援を行うセンターを設立する。また、その他の資格についても、同センターで支援できるようにする。さらに学習サポートを組織的に行うために同センター内にラーニング・コモンズとなる空間を確保することで、学生に学習支援の場所を提供する。	差別化(T×S)	教職課程委員会地域連携推進委員会教務委員会	地域連携推進センターと教職関係実践センター(仮称)の業務内容の検証と整理センター設置場所の検討	19	0	0	0	0	0	0	0	現在、教職関係実践センター(仮称)を設立することは難しい状況にある。そのため、関連する各委員会と連携協力しながらセンターの設立など可能な方法を検討する。また、学習サポートについては、学生の学習環境の整備に向けた組織体制づくりを検討する。			
				運営に当たった組織作り(人員確保・業務整理を含む)学習支援に関する内容・方法の検討	20	0	0	0	0	0	0	0	0				
				センターの運営、運営方法・業務内容の見直し→学内の教職員で兼任する場合は人件費あり→センター専任の教職員を配置する場合は人件費あり	21	0	0	0	0	0							
	学生募集対策と学生数・学納金等計画	社会性と共に世界性のある人材の育成には年齢を問わず専門人材育成を充実させる	企業による学費サポート	差別化(T×S)	短大事務局	成績優秀で、経済的負担を減らしたい学生と優秀な学生を採用したい企業のマッチングを行う。卒業10名 スポ10名 マネ10名	48	0	0	0	0	0	0	令和5年度は、新たな企業と学費サポートを締結する事はできなかった。			
					社会人入学者の増加	入試委員会	社会人が入学しやすい環境づくり(DSSNを活用し情報発信)②調理場でパート勤務の方へ、卒業資格取得促進のための企業訪問 ③本学ホームページ上に社会人特設サイトを設け、卒業後の就職状況や職場での活躍、企業情報等を紹介する。	49	★	0	0	0	0	0	社会人入学の増加を目指し、年度当初よりチラシを作成してホームページに説明し出した。特に委託調理については、今年度も対象校として認定を受けた事ができ、昨年度の3倍の希望者を集める事ができた。		
					学生募集活動の総ざらえ点検	短大事務局	交通が不便な高大連携校エリアにスクールバスを導入し、通学の負担軽減を図る。通いやすい環境を整備して、連携校からの学生募集を強化する。卒業5名 スポ5名 マネ5名	50	0	400	0	0	0	0	当初の目標であったスクールバスを利用して通学範囲の拡大を図り、学生募集を強化する目標であったが、明らかに受益者負担の採算目標は達成できないと判断し、この計画を中止とする。		
	経費抑制計画	経営状況、赤字要因を含めた的確な分析をして経費抑制計画を立てる	予算申請方法の改善	改善(O×W)	予算・施設機器委員会委員長	SWOT分析でも、予算申請方法について、意見が多い。短大では予算申請時にヒアリング等を実施していないため、適正な予算申請を実施できる体制を整える必要がある。今後は短大の各部署に予算上限を設定し、各部署で調整した後に、各自で申請を実施する。	76	★	0	0	0	0	0				
					奨学費支出の削減	短大事務局長	令和2年度は奨学金支出の教育経費との比率で53%、学生納付金に対しても22%。現状の財政状況を鑑みて適正な運用を行っていく必要がある。令和4年度の奨学費支出は令和3年度の学生納付金額36,200万円の15%として、5,430万円以内を目標とする。	77	0	0	0	0	0				
			女子サッカー部のロンドン遠征の在り方	短大専任	SWOT分析でも、ロンドン遠征について、中止の意見が多く、短大の厳しい財政状況を考え見直しの必要がある。学生の負担額を増やしたり、学園全体の教職員や一般学生から遠征費を支援してもらうことで軽減可能な検討する。クラウドファンディング等で寄付金を募る。	78	0	0	0	0	0	0					
外部委託費・旅費交通費の削減			短大事務局長	他大学と比較し奨学費支出以外では、2つの経費が突出しているため、見直しの検討が必要である。委託費は見直しや内装化した際の検討を行い、旅費は遠方の出張を抑え、経費削減を目指す。	79	★	0	0	0	0	0	0					
マネジメント専攻廃止の検討			短大専任	SWOT分析でもマネジメント専攻の継続について、意見が多い。学生募集も改善されず、学生一人当たりの経費負担も他専攻より高額であるため、廃止の検討をしていく必要がある。学期の変更もあるため、令和4年度に検討する。(1,390,000円削減)	80	★	0	0	0	0	0	0	健康マネジメント専攻の募集停止に伴い、「マネジメントコース」を新設し、健康マネジメント専攻希望の受験生を取込む体制を整えた。				
短大全体の経費見直し			短大事務局長	SWOT分析で意見が多く、即効性のある経費削減の提案、免許状更新講習の昼食会、カラーコピーの削減、エアコンの節電など。(2,070,000円削減)	81	0	0	0	0	0	0	0					
外部資金の獲得・寄付の充実・遊休資産処分等計画	収益事業の促進	サッカー教室	積極(O×S)	実施担当組織	①グラウンド等の施設の貸し出しを進めていく5万(令和5年)	110	0	0	0	0	0	0	0				
				実施担当組織	②ニーズ調査のため、令和4年度、令和5年度は試験的実施をし、令和6年度より本格的に実施する	111	0	0	0	0	0	0	0	0	コロナの影響で需要が見込めず実施断念。		
				実施担当組織	予算等の整備	112	0	0	0	0	0	0	0	0			
				実施担当組織	安全性確保	113	0	0	0	0	0	0	0	0	コロナの影響で需要が見込めず実施断念。		

＜参考＞ 推移表

在籍者

\* 割合は少数第2位切り捨て

短大		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
健康栄養専攻 (2年課程)	総定員	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160
	在籍者数	158	178	179	161	148	139	121	131	131	140	122	107
	男	21	22	16	13	11	12	13	14	15	25	24	12
	女	137	156	163	148	137	127	108	117	116	115	98	95
	充足率	98.7%	111.2%	111.8%	100.6%	92.5%	86.8%	75.6%	81.8%	81.8%	87.5%	76.2%	66.8%
健康スポーツ 専攻 (2年課程)	総定員	160	160	160	160	160	160	160	160	160	150	140	140
	在籍者数	149	128	134	136	118	131	117	118	145	119	92	93
	男	45	39	48	53	37	35	39	47	63	58	39	33
	女	104	89	86	83	81	96	78	71	82	61	53	60
	充足率	93.1%	80.0%	83.7%	85.0%	73.7%	81.8%	73.1%	73.7%	90.6%	79.3%	65.7%	66.4%
健康マネジメント 専攻 (2年課程)	総定員	80	80	80	80	80	80	80	80	80	60	40	20
	在籍者数	10	14	8	9	15	21	22	27	26	25	22	5
	男	1	2	0	1	0	0	1	4	3	3	3	1
	女	9	12	8	8	15	21	21	23	23	22	19	4
	充足率	12.5%	17.5%	10.0%	11.2%	18.7%	26.2%	27.5%	33.7%	32.5%	41.6%	55.0%	25.0%
学校計	総定員	400	400	400	400	400	400	400	400	400	370	340	320
	在籍者数	317	320	321	306	281	291	260	276	302	284	236	205
	男	67	63	64	67	48	47	53	65	81	86	66	46
	女	250	257	257	239	233	244	207	211	221	198	170	159
	充足率	79.2%	80.0%	80.2%	76.5%	70.2%	72.7%	65.0%	69.0%	75.5%	76.7%	69.4%	64.0%

※ 在籍者数は5月1日現在の数値を記載。

＜参考＞ 推移表

学生募集(入学者等)

\* 割合は少数第2位切り捨て

短大		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06
		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
健康栄養専攻 (2年課程)	入学定員	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
	入学者数	93	88	92	69	83	59	63	71	63	76	48	59
	男	14	7	9	5	7	5	8	7	9	16	8	4
	女	79	81	83	64	76	54	55	64	54	60	40	55
	充足率	116.2%	110.0%	115.0%	86.2%	103.7%	73.7%	78.7%	88.7%	78.7%	95.0%	60.0%	73.7%
健康スポーツ 専攻 (2年課程)	入学定員	80	80	80	80	80	80	80	80	80	70	70	70
	入学者数	61	68	69	66	56	76	45	73	69	53	42	53
	男	15	23	26	26	13	22	18	29	33	26	15	19
	女	46	45	43	40	43	54	27	44	36	27	27	34
	充足率	76.2%	85.0%	86.2%	82.5%	70.0%	95.0%	56.2%	91.2%	86.2%	75.7%	60.0%	75.7%
健康マネジメント 専攻 (2年課程)	入学定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	20	20	-
	入学者数	8	6	3	5	10	11	9	19	8	16	6	-
	男	1	1	0	0	0	0	1	2	1	2	1	-
	女	7	5	3	5	10	11	8	17	7	14	5	-
	充足率	20.0%	15.0%	7.5%	12.5%	25.0%	27.5%	22.5%	47.5%	20.0%	80.0%	30.0%	-
学校計	入学定員	200	200	200	200	200	200	200	200	200	170	170	150
	入学者数	162	162	164	140	149	146	117	163	140	145	96	112
	男	30	31	35	31	20	27	27	38	43	44	24	23
	女	132	131	129	109	129	119	90	125	97	101	72	89
	充足率	81.0%	81.0%	82.0%	70.0%	74.5%	73.0%	58.5%	81.5%	70.0%	85.2%	56.4%	74.6%
	前年度OC参加者	409	418	412	391	442	391	376	458	243	320	281	271
	出願者数	169	170	174	145	153	151	118	166	142	146	97	115
OC歩留率	41.3%	40.6%	42.2%	37.0%	34.6%	38.6%	31.3%	36.2%	58.4%	45.6%	34.5%	42.4%	

※ 入学者数は5月1日現在の数値を記載。

※ 前年度OC参加者は入学前年度(願書提出年度)の4月1日～9月30日のOC(オープンキャンパス等)の参加者数を記載。

《参考》 推移表

学生支援(退学者)

\* 割合は少数第2位切り捨て

短大		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	
		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
健康栄養専攻 (2年課程)	在籍者数	145	158	178	179	161	148	139	121	131	131	140	122	
	退学者数	5	6	6	2	8	6	1	6	3	3	7	0	
	退学率	3.4%	3.7%	3.3%	1.1%	4.9%	4.0%	0.7%	4.9%	2.2%	2.2%	5.0%	0.0%	
	1年生のみ	在籍者	67	94	90	92	69	84	59	64	71	63	76	48
		退学者	3	5	5	0	5	5	1	4	2	2	3	0
退学率		4.4%	5.3%	5.5%	0.0%	7.2%	5.9%	1.6%	6.2%	2.8%	3.1%	3.9%	0.0%	
健康スポーツ専攻 (2年課程)	在籍者数	159	149	128	134	136	118	131	117	118	145	119	92	
	退学者数	10	6	4	1	6	2	6	2	1	3	8	7	
	退学率	6.2%	4.0%	3.1%	0.7%	4.4%	1.6%	4.5%	1.7%	0.8%	2.0%	6.7%	7.6%	
	1年生のみ	在籍者	91	61	68	69	66	56	76	45	73	69	53	42
		退学者	4	2	3	0	4	1	3	0	0	2	4	3
退学率		4.3%	3.2%	4.4%	0.0%	6.0%	1.7%	3.9%	0.0%	0.0%	2.8%	7.5%	7.1%	
健康マネジメント専攻 (2年課程)	在籍者数	3	10	14	8	9	15	21	22	27	26	25	22	
	退学者数	1	0	1	0	1	0	0	2	2	1	1	1	
	退学率	33.3%	0.0%	7.1%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	9.0%	7.4%	3.8%	4.0%	4.5%	
	1年生のみ	在籍者	3	8	6	3	5	10	11	9	19	8	16	6
		退学者	1	0	1	0	0	0	0	2	2	1	0	1
退学率		33.3%	0.0%	16.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	10.5%	12.5%	0.0%	16.6%	
学校計	在籍者数	307	317	320	321	306	281	291	260	276	302	284	236	
	退学者数	16	12	11	3	15	8	7	10	6	7	16	8	
	退学率	5.2%	3.7%	3.4%	0.9%	4.9%	2.8%	2.4%	3.8%	2.1%	2.3%	5.6%	3.3%	
	1年生のみ	在籍者	161	163	164	164	140	150	146	118	163	140	145	96
		退学者	8	7	9	0	9	6	4	6	4	5	7	4
退学率		4.9%	4.2%	5.4%	0.0%	6.4%	4.0%	2.7%	5.0%	2.4%	3.5%	4.8%	4.1%	
退学者の1年生率	50.0%	58.3%	81.8%	0.0%	60.0%	75.0%	57.1%	60.0%	66.6%	71.4%	43.7%	50.0%		

※ 在籍者数は5月1日現在の数値を記載。

※ 「退学者の1年生率」とは退学者のうち1年生が占める割合とする。

《参考》 推移表

就職支援

\* 割合は少数第2位切り捨て

短大		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
		2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
健康栄養専攻 (2年課程)	卒業者数	74	61	85	84	88	62	80	54	59	64	59	73
	就職希望者	65	50	72	77	77	58	72	51	52	59	52	66
	就職者数	64	46	72	75	76	58	72	50	52	59	51	65
	就職率	98.4%	92.0%	100.0%	97.4%	98.7%	100.0%	100.0%	98.0%	100.0%	100.0%	98.0%	98.4%
健康スポーツ専攻 (2年課程)	卒業者数	61	83	59	63	68	58	52	70	41	72	61	45
	就職希望者	51	62	47	51	53	53	49	64	38	65	50	39
	就職者数	50	61	45	50	52	53	49	64	35	65	50	39
	就職率	98.0%	98.3%	95.7%	98.0%	98.1%	100.0%	100.0%	100.0%	92.1%	100.0%	100.0%	100.0%
健康マネジメント専攻 (2年課程)	卒業者数		2	8	5	3	5	10	13	8	17	8	16
	就職希望者		2	7	5	3	5	10	12	7	16	8	14
	就職者数		2	7	5	3	5	10	12	7	16	8	11
	就職率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	78.5%
学校計	卒業者数	135	146	152	152	159	125	142	137	108	153	128	134
	就職希望者	116	114	126	133	133	116	131	127	97	140	110	119
	就職者数	114	109	124	130	131	116	131	126	94	140	109	115
	就職率	98.2%	95.6%	98.4%	97.7%	98.4%	100.0%	100.0%	99.2%	96.9%	100.0%	99.0%	96.6%

※ 就職率は就職希望者に対する就職者の割合とする。